

公立大学法人札幌市立大学
平成23事業年度の業務実績に関する評価結果

平成24年8月

札幌市地方独立行政法人評価委員会

1 公立大学法人札幌市立大学の年度評価の方法

- (1) 年度評価は、「項目別評価」及び「全体評価」により行う。
- (2) 項目別評価は、各事業年度における中期計画（年度計画）の次に掲げる事項（大項目）の進捗状況の確認又は評価を行う。
 - ① 大学の教育研究等の質の向上
 - ② 業務運営の改善及び効率化
 - ③ 財務内容の改善
 - ④ 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供
 - ⑤ その他業務運営
- (3) 項目別評価に当たっては、まず、公立大学法人から提出された業務実績報告書等を検証し、年度計画の記載項目ごとの事業の進捗状況について、次に掲げるⅠ～Ⅳの4段階で評価を行う。公立大学法人による評価と評価委員会の評価が異なる場合は、その理由等を示す。

Ⅳ：年度計画を上回って実施している。

Ⅲ：年度計画を十分に実施している。

Ⅱ：年度計画を十分には実施していない。

Ⅰ：年度計画を実施していない。
- (4) (3)の結果等を踏まえ、年度計画の大項目ごとに、事業の進捗状況について次に掲げるS～Dの5段階で評価を行う。

S：特筆すべき進捗状況にある（評価委員会が特に認める場合）

A：計画どおり進捗している（すべてⅣ又はⅢ）

B：おおむね計画どおり進捗している（Ⅳ又はⅢの割合が9割以上）

C：やや遅れている（Ⅳ又はⅢの割合が9割未満）

D：重大な改善事項がある（評価委員会が特に認める場合）
- (5) 全体評価は、項目別評価の結果等を踏まえ、中期計画（年度計画）の進捗状況全体について、総合的に評価を行う。

2 全体評価

(1) 総評

平成18年4月に開学した公立大学法人札幌市立大学は、平成21年度に学部が完成し、平成22年4月には、デザイン研究科と看護学研究科の大学院博士前期課程、平成24年4月には大学院博士後期課程を設置するといった、間断なく大学を発展させている。開学時より、デザインと看護に共通する「人間重視」の考え方を常に基本として教育研究を行っており、デザイン分野と看護分野における有為な人材の育成・輩出と地域に根ざした公立大学として、より高度な教育研究機能を備えたことから一層の地域貢献が期待されている。

平成23事業年度の業績評価としては、「項目別評価」の結果では、2項目でB評価（おおむね計画どおり進捗している）とし、そのほかの3項目についてはA評価（計画どおり進捗している）となっており、年度計画の小項目ごとの評価からも、全体としては、行うべき事業を行い、順調に業務を遂行していると評価できる。

なお、項目別評価の基礎資料となる公立大学法人札幌市立大学が策定した平成23年度の年度計画の記載項目（小項目）ごとの評価（小項目評価）においても、小項目数187項目のうち、5項目がⅣ評価（年度計画を上回って実施している）、178項目がⅢ評価（年度計画を十分に実施している）となっており、これらを合わせると187項目中183項目（98%）が年度計画実施の水準を満たしている。

また、毎年度の詳細な年度計画の評価等を通じて、大学業務全般にわたって改善に取り組んでいることが、平成23事業年度に係る業務及び中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書（以下「報告書」という。）からもうかがえた。

(2) 年度計画の大項目ごとの評価の主要なポイント

年度計画の大項目ごとの評価の主要なポイントは、次のとおりである。

ア 大学の教育研究等の質の向上

(ア) 教育

- ・ 第1期中期計画の最終年度として、教育については概ね順調に達成できたと判断できる。
- ・ 文部科学省就業力GPによるシャトル研修などの取組や、デザイン学部と看護学部の学生が専門分野を学ぶ上で、問題点の発見や課題解決等の手法を学ぶ「スタートアップ演習」の取組は、地域に貢献できる人材の育成に大きく貢献している。
- ・ 大学院設置と同時に導入したTA制度では、先進的な研修を実施しており、今後のTA制度の充実が期待される。
- ・ 一方で、継続的に指摘をしているが、キャップ制の導入やGPAの活用、成績評価基準の確立が十分にされておらず、単位制度の実質化に向けた取組をより一層進める必要がある。
- ・ FD/SDについては、教職員に必要とされる能力とレベルを示すマップを構築し、ニーズ調査を行い、計画的に実施することが求められる。

(イ) 研究

- ・ 札幌市や道内市町村の地域課題に即し、地域と密着した研究を実施している。
- ・ 以前より実施をしてきた認定看護管理者のサードレベル教育課程に取り組み、受講者全員が合格したほか、看護職復職支援講習に取り組み、受講者の就業に結びついた。
- ・ 産業界等との連携は、北海道立総合研究機構との連携や中小企業などの産業界へ向けた「地域連携を目的とした研究交流会」の開催など、連携の糸口がつかめたところである。今後は、これらの連携がより具体的なものになることを期待する。
- ・ 一方で、科学研究費補助金の申請は、申請率が前年度より下がっており、大学全体として申請率を上げる積極的な取組が行われることを期待する。

(ウ) 地域貢献

- ・ 大学の国際化については、大学院における留学生の受け入れや海外大学との交流の成果が出始めており、大学の国際化に向けた本格的な第一歩を踏み出したところである。

イ 業務運営の改善及び効率化

- ・ 全学的な点検・評価活動を行い、平成24年度計画では22項目を四半期ごとのマネジメントサイクルの実施を決めたことや、認証評価機関の評価で「大学基準に適合している」との認証評価結果を受けるなどの成果をあげた。

ウ 財務内容の改善

- ・ 地域連携研究センターにおいて、民間企業等の研究・調査ニーズを把握し、受託研究の受入を行った。

エ 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供

- ・ 認証評価機関の評価を受け、「大学基準に適合している」との認証評価結果を受けた。

オ その他業務運営

- ・ 大学の知的資源を活用し、学生と教職員とが一体となって、効果的な省エネルギー対策を進めていくことを期待する。

(3) 今後の課題

- ・ 研究については、科学研究費補助金の申請率から判断して、研究意欲が乏しいと思われる教員も見受けられるので、何らかの動機づけが必要だろう。札幌市立大学の実力を踏まえると、もっと研究に対する意欲が強くても良いと考える。
- ・ 平成24年度計画から実施される四半期、半年ごとのマネジメントサイクルを着実に実施することを望む。
- ・ 外形的評価というスタイルで実施する以上、年度計画や報告書に記載されている調査の結果などは、必ず資料を添付するといった配慮をされることを望む。

3-1 教育研究等の質の向上に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

B（おおむね計画どおり進捗している）

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、小項目数125項目に対して、「年度計画を上回って実施している（Ⅳ評価）」又は「年度計画を十分に実施している（Ⅲ評価）」と評価された項目が122項目であり、全体に占めるその割合が9割以上であることから、B評価（おおむね計画どおり進捗している）とする。

（参考）小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
	Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分実施	Ⅳ 上回って実施	
125	0	3	118	4	98%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

(ア) 年度計画を上回って実施している項目として、次のものが挙げられる。

- ・ 看護学部では、「文部科学省就業力GP」に基づき、卒業生の就業先と連携した「看護職キャリア形成支援に関する意見交換会」や卒業生を対象としたシャトル研修を実施していることは、学生の就業力育成あるいは地域還元の優れたプログラムとして評価できる。
- ・ 短期間のうちに先進的なTA研修を導入したことは評価でき、TA制度のさらなる拡大・発展を期待する。
- ・ 看護職への復職希望者のための教育に取り組んだことは高く評価される。
- ・ 大学院において、両研究科の連携プロジェクト演習では、発表件数は3件とやや少なかったが、札幌市立大学の特徴がいかに発揮されており、今後ともこうした特徴的な教育の充実を期待する。

(イ) その他、次に掲げる点が注目される。

- ・ 「スタートアップ演習」においては、大学生としての主体的学習のレディネスを高めるための札幌市立大学に適した問題解決プロジェクト活動などの工夫がみられ評価できる。
- ・ 中小企業などの産業界へ向けた「地域連携を目的とした研究交流会」への取組や北海道立総合研究機構との連携など、産学連携の芽となるようなさまざまな事業に取り組み始めたことは評価でき、より具体的なものになることを期待する。
- ・ 「国際交流事業促進支援制度（短期）実施要領」を策定したことや海外大学との様々な交流が行われたことなど、国際交流の成果が出始めており、さらな

る取組の充実を期待する。

イ 遅れている点

- ・ 学期ごとのキャップ制の導入は依然として進展しておらず、GPAについては、単位制度の実質化という観点では、活用に至っていない。
- ・ e-ラーニングシステム等について、年度計画にある「授業事例を全教員に紹介する機会」が設けられたのかどうか、添付資料では判断できなかった。よって機会は設けられなかったと判断した。
- ・ もともと低い科学研究費補助金の申請率がさらに低下したことは、非常に問題である。さまざまな理由により、科学研究費補助金の申請率が減少したと思われるが、科学研究費補助金の申請率をあげることをめざすと年度計画でも掲げられており、達成できなかったことをもっと真摯に受け止めてほしい。

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ FD/SDについては、マップを構築し、プログラム企画、ニーズ調査等に役立てるなど、系統的な取組にする方向での工夫が必要である。
- ・ 学生からの授業評価、卒業生によるアカデミック・ポリシーの評価及びカリキュラムポリシーの評価の仕組みが十分に機能していないため、カリキュラム等へのフィードバックがなされていないと考えられる。システムをつくり機能させることが求められる。
- ・ 単位互換制度の目的の一つは、単位認定制度の内的なチェックでもある。その意味で、互換相手の変更にかかわらず、整備を進める必要がある。単位互換制度の導入の意義を議論し、実現に向けて努力することが期待される。
- ・ デザイン学部のコース分けの結果は、メディアデザインへの偏りがあり、これには入学者の性別が一方に偏っていることに関係しているように見える。コースごとに就職状況に注目し、キャリア教育に力を注ぐ必要がある。
- ・ 成績評価について、「卓越性の評価」という高等教育に固有の観点から見て、評価基準が確立されていないと思われる大型クラスがいくつか見られる。
- ・ 今後も「情報収集の目的」でUMAPに参加するのであれば、UMAPの事業に参加することはあまり期待できず、今後、UMAPとの関係については、大幅な見直しが必要になる。

3-2 業務運営の改善及び効率化に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、すべての小項目において、「年度計画を上回って実施している (IV評価)」又は「年度計画を十分に実施している (III評価)」と評価されたことから、A評価 (計画どおり進捗している) とする。

(参考) 小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				IV又はIIIの割合
	I 実施せず	II 十分実施せず	III 十分実施	IV 上回って実施	
31	0	0	30	1	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

小項目において、年度計画を上回って実施している項目として、次のものが挙げられる。

- ・ 自己点検・評価委員会を中心として、全学的な点検・評価活動を実施し、全教員が関わって点検・評価活動を行った結果として、平成24年度計画では22項目を四半期ごとのマネジメントサイクルを実施するという成果を出したことは評価できる。

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ 東日本大震災の復興支援のために、看護学部の教員のみならず、デザイン学部の教員及び事務局職員を派遣しているが、デザイン学部の教員・事務局職員がどのような活動に従事したのか、いわき市に特定した理由は何か、などが分かるようにしていただきたい。
- ・ 教員評価の実施にあたっては、対話やコミュニケーションを通して相手の可能性を引出し、その可能性に期待をかけるように評価制度を活用してもらいたい。
- ・ 経費の財源は、「大学全教職員の共有の財産である」という認識が必要である。経理の仕事は現職員数で期限内に遂行することを前提に、業務改革を行うべきである。

3-3 財務内容の改善に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

B（おおむね計画どおり進捗している）

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、小項目数13項目に対して、「年度計画を十分に実施している（Ⅲ評価）」と評価された項目が12項目であり、全体に占めるその割合が9割以上であることから、B評価（おおむね計画どおり進捗している）とする。

（参考）小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
	Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分実施	Ⅳ 上回って実施	
13	0	1	12	0	92%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

小項目評価において年度計画を上回って実施している項目はないが、次に掲げる点が注目される。

- ・ 地域連携研究センターにおいて、民間企業、国、地方公共団体等における研究・調査に係るニーズと学内の研究成果と結び付ける活動については、手探りの状況ではあるが、その積極性は評価できる。

イ 遅れている点

- ・ 科学研究費補助金の申請率が高くない状況で、科研費補助金の申請率が下がっており、科学研究費補助金の申請件数の増加に向けた取組が不十分であると言わざるを得ない。

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ ヒアリングでの回答などからは、業務量が多いから職員を増やせばいいとの印象を受けたが、業務分析の結果をもとに、現在の人員で期限内に仕事を終わらせるためにどうしたらよいかという発想で、業務改善に努めていただきたい。

3-4 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、すべての小項目において、「年度計画を十分に実施している (Ⅲ評価)」と評価されたことから、A評価 (計画どおり進捗している) とする。

(参考) 小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
	Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分実施	Ⅳ 上回って実施	
6	0	0	6	0	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

小項目評価において年度計画を上回って実施している項目はないが、次に掲げる点が注目される。

- ・ 財団法人大学基準協会に対して「自己点検・評価報告書」と関係書類を提出し、その後、10月に実施された実地調査に対応し、平成24年3月に同協会から「本協会の大学基準に適合していると認定する。」旨の認証評価結果を得ている。

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ 公開講座等の受講者を対象としたアンケート結果によると受講者の満足度が5段階評価で平均4.2となっており、質の高い講座が実施されている。

3-5 その他業務運営に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、すべての小項目において、「年度計画を十分に実施している(Ⅲ評価)」と評価されたことから、A評価(計画どおり進捗している)とする。

(参考) 小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
	Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分実施	Ⅳ 上回って実施	
12	0	0	12	0	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

小項目において年度計画を上回って実施している項目はないが、次に掲げる点が注目される。

- ・ 昨年度に引き続き、大学の知的資源を活用した省エネルギー対策の実証実験を行ったほか、LED灯の設置など、省エネルギー対策に取り組んだ。

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ 今日の安全安心なエネルギーへの転換に向けた動きも踏まえ、引き続き、学生と教職員が一体となった省エネルギー対策に取り組むことを期待する。